

荒川区教育委員会
教育長 阿部 忠資 様荒川区立第三峽田小学校
校長 福留 正也

学校関係者評価報告書

令和7年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目1 「学校全体の様子」
<p>1_教育目標・方針 保護者の「よくあてはまる」は前年度比5.2%増加。継続した努力が成果を挙げている。</p> <p>2_児童・生徒の様子 児童・保護者共に肯定的評価が95%以上を保った。傾向としては良好と判断した。</p> <p>3_基本的生活習慣 肯定的評価は児童、保護者ともに前年度よりも増加しており、高水準を保持している。</p> <p>4_児童・生徒理解 保護者の肯定的評価が前年度よりも増加しており、91%を超えた。</p> <p>5_健康・安全・安心 ほぼ昨年と同じ水準であった。引き続き安全で安心な学校づくりを進める。</p>
評価項目2 「学力向上の取組」
<p>6_分かる授業 肯定的評価は児童・保護者ともに87%以上である。今後もわかりやすい授業づくりを行う。</p> <p>7_個に応じた指導 肯定的評価は児童、保護者ともに前年度の水準を保持できた。</p> <p>8_学習習慣 保護者の「よくあてはまる」は前年度比11.2%増加。啓発活動が功を奏している。</p> <p>9_情報教育 児童・保護者の「よくあてはまる」が前年度より増加。今後もTPCを生かした活動を進める。</p> <p>10_学校図書館の活用 児童の肯定的評価が前年度比5.4%減少。図書館活用の有効活用が必要である。</p>
評価項目3 「社会性・人間性の育成」
<p>11_人権教育 児童の「よくあてはまる」は前年度比14.9%増加。教員の指導が成果を挙げている。</p> <p>12_道徳教育 児童の肯定的評価が6.3%減少。他の教育活動と関連付けて取り組んでいく。</p> <p>13_教育相談 保護者の「よくわからない」が微増。取組を学校だより等で引き続き説明していく。</p> <p>14_人間関係づくり 児童・保護者とも肯定的評価は高い。本校の良さの一つととらえこれからも努力していく。</p> <p>15_自治的な活動 児童・保護者の肯定的評価が高水準を維持している。校内研究の成果が実を結びつつある。</p>

評価項目 4 「保護者・地域との連携」

16_情報発信

児童・保護者の「余りあてはまらない」が微増。HPの発信を改善していく。

17_相談への対応

児童・保護者の「よくあてはまる」が増加。今後も必要な時に相談できる体制を維持する。

18_学校への参加

児童の「余りあてはまらない」が15%以上増加。保護者への来校を粘り強く伝える。

19_地域との連携

児童・保護者の「よくあてはまる」が減少。引き続き地域との連携を工夫・努力する。

20_意見の反映

保護者の肯定的評価が4.6%増加。引き続き保護者の声に応える取組を行っていく。

評価項目 5 「特色ある教育活動」

21_主体的に学ぶ姿勢

児童の「あまりあてはまらない」が14.5%。引き続き校内研究を通して改善を図っていく。

22_体験学習

保護者の「あまりあてはまらない」が10.5%。活動内容を頻繁に発信する必要がある。

23_協働学習

児童の肯定的評価が70%。TPCを使った話し合い活動を行っていく必要がある。

24_読書活動

児童の否定的評価が25%。一定数いる読書嫌いの児童への対応を今後も行っていく。

25_異学年交流

保護者の肯定的評価が約90%。小規模の本校の特色として今後も力を入れていきたい。

評価結果を受けての学校の改善方針

学校評価アンケートの結果からは、おおむね児童・保護者・教職員ともに良好な学校運営がなされていると考える。

令和5年度から「学びのハンドルは自分が握る」を研究主題として研究を行っている。アンケート結果から徐々に成果が表れてきている。来年度以降も継続した取組を行う。

情報発信については、「児童がホームページの更新を行うと、保護者による閲覧回数が飛躍的に伸びる。」との学識経験者から改善のヒントを得た。来年度にむけて情報教育担当を中心として改善していく。

基本的な生活習慣について、教員と児童・保護者の認識に隔たりがある。生活習慣は家庭でも育てることが基本であるが、例えば朝の挨拶について、教員が行っても行わない児童を改善するより、しっかりと行っている児童をほめる「ほめほめ作戦」を学校全体の取組とする案を学識経験者から得た。今後、生活指導部を中心として検討を進める。

読書活動は大切であるが、苦手意識をもった児童が存在する。読書のよさを伝え続けることも重要であるが、自発的に読書に取り組みさせる必要がある。今後も学校司書と連携して児童にとって身近な図書館を有効活用し、一人でも読書が好きな児童を増やしていく。

オープンスクールや道徳授業地区公開講座などの学校行事における保護者の参加率が低い。学校の取組や児童の学習活動にもっと興味をもってもらうため、児童が家で学校での出来事を伝えるよう働きかけるなどして、保護者の参加率を上げる。